

倉掛新聞

《発行所》 倉掛自治連合会
 倉掛自治連合会
 井原市井原町倉掛
 会長／梶谷昌弘
 《編集》 倉掛自治連合会
 倉掛自治連合会
 倉掛少年団
 倉掛少年分団第5
 消防井原分団

井原町敬老会開く

井原公民館主催

倉掛のお年寄り22人出席



九月十三日、井原公民館主催による敬老会が井原小学校体育館で開かれ、倉掛からも井原町内最高齢を誇る片岡一美さん（十月二十六日で九十八歳）ら二十二人のお年寄りが出席した。

森下公民館長や来賓の挨拶に続いて長寿祈願祭でお年寄りの無病息災を祈り、演芸の部に移った。今回は唄や踊りに加え可愛い子供神楽の熱演もあり、会場のお年寄りから盛んな拍手が送られた。

この敬老会の準備運営からお年寄りの送迎まで、一切に係わった倉掛婦人会の山岡信子支部長は「敬老会は婦人会の年間行事でも大きな活動のひとつ。いたらぬ面もあったと思いますが喜んで頂けたようでホッとしています」と安堵の表情を浮かべていた。



倉掛婦人会の役員と倉掛自治連合会の梶谷会長

三十世帯が床下浸水

小田川の水門から泥水逆流

台風10号増水 深夜増水

十月十八日未明、岡山県下を縦断した台風10号は県北部を中心に甚大な被害をもたらした。倉掛地区でも深夜、小田川の増水で井原大橋脇の水門から逆流したと見られる泥水が雨水管を伝ってあふれ出し、浸水による被害が発生した。

前夜、小田川上流では相当地域雨量があった。ところが井原は時折雨足が強まる程度の雨量だったため住民の警戒心は薄く、寝静まった午前一時頃からの家

屋浸水は、まさに「寝耳に水」となった。通報により消防も井原分

団（一部七部）すべてが緊急出動。消防ポンプを八組の山田逸夫さん宅の裏へ

据え、大量に入り込んだ泥水を明け方近くまで小田川へ放流し続けた。

浸水被害の区域は井原大橋付近から上へ約三十世帯（倉掛自治連合会調べ）に

上り、住民の家財道具や商品を片付ける姿は以後数日間にも及んだ。



増水で逆流したと見られる水門

留任要請を受諾

倉掛地区民生児童委員

川相肇氏と森梅子さん

諾された。民生児童委員は社会福祉の向上のために、住民の生活状況の把握や保護指導、福祉業務への協力など、地域における重要な役割を担っている。

十一月十五日は「七五三」

●郷社で祈願祭●

郷社足次山神社は今年も七五三の祈願祭を行う。なお、日時は左記のとおり。

十一月七日～八日
 十一月十四日～十五日
 時間はいずれも午前十時から午後四時まで。

民生児童委員二名の選出依頼を受けていた倉掛自治連合会は、協議の結果、倉掛地区の現役委員として顕著な活動を展開中の川相肇氏と森梅子さんに對し、引き続き委員としての在籍を要請していたが、ともに受

生かそう水害の教訓

市へ水門の徹底管理を要請

このたびの浸水被害の原因は、川魚や大量の泥の流入から見ても、井原大橋に最も近い水門が開いていた事による逆流は明らか。

また、浸水被害の広がりをくい止めようと土のう袋は持参されたが、肝心の砂が無かったことによる被害拡大も関係住民の表情を曇らせている。

事態を重く見た倉掛自治連合会は「水門に関する管理体制と問題点」について市建設課へ実態調査とその対策を申し出た。

これらを教訓として、行政、消防、住民が一体となった防災体制の確立を望む声が大い。

青空の秋祭り



少年団みこし繰り出す

抜ける様な青空が広がった秋本番の10月25日は井原町の秋季大祭。倉掛は郷社足次山神社を中心に、鬼や千歳楽が繰り出した。

午前九時、少年団と育成会は郷社の拝殿前にきれいに飾りつけた子供みこしを持ち込み、大山宮司によるお祓いをうけた。その後、掛け声を響かせながら倉掛地区内を回り、祭りの雰囲気盛り上げに一役買った。

また第五部消防団を軸とした千歳楽の一行は、防火や家内安全を呼びかけながら倉掛・夏目の広い五部管内を威勢良く練り歩いた。郷社の境内では午後から奉納神楽もあり、参拝に訪れた氏子やその親戚縁者らが、迫力ある備中神楽を楽

午九時、少年団と育成会は郷社の拝殿前にきれいに飾りつけた子供みこしを持ち込み、大山宮司によるお祓いをうけた。その後、掛け声を響かせながら倉掛地区内を回り、祭りの雰囲気盛り上げに一役買った。

また第五部消防団を軸とした千歳楽の一行は、防火や家内安全を呼びかけながら倉掛・夏目の広い五部管内を威勢良く練り歩いた。郷社の境内では午後から奉納神楽もあり、参拝に訪れた氏子やその親戚縁者らが、迫力ある備中神楽を楽

「少しさみしい」といった声も聞かれた。

野宮君 三兄弟

柔道や相撲で活躍

たくましい小2の三つ子

倉掛十八一三組に住む野宮幹人さん由美さん夫妻の三つ子の兄弟、周平君・拓士君・佳佑君は、井原後月柔道スポーツ少年団に所属し週三回柔道の練習に励む元気の良い小学二年生。

柔道を習い始めたときか

優勝し、井原市民体育祭において優秀選手の表彰を受けた。三人はそれぞれ体格こそ違うが、たくましさの点では全く互角だ。

市民体育祭出場選手

おつかれさま

少年部 400mリレー (3組)	佐能実智男
ボールけりリレー (8組)	渡辺 照子
高校青年ディスクリレー(13-3組)	金光 千賀
男子 800m競走 (13-3組)	藤井 大輔
40代 400mリレー (5-2組)	細羽 正敏
" (7組)	倉橋 一郎
30代 400mリレー (5-1組)	山元 幸治
" (8組)	森兼 孝治
玉入れ競技 (8組)	渡辺 照子

郷社の歴史

「芳井村大字天神山の中央の高嶺を足次山といふ。太古の神降臨まします霊地にして、爰に足次山神社勸請ありしを応永年間、井原倉垣の里に遷座し奉りしと口碑に伝へ、今尚此山に足次山神社と称する小祠の鎮座あり。村を天神山と唱へ山を足次山と唱ふる所に依れば由緒深かるべし後考に俟つ」

以上、後月郡誌の郷社に関する記述の一部である。

◇

芳井町天神山にある足次山は、丁度奈良の若草山を小さくしたような美しい形で、その頂に2m四方位の素朴な祠があり、古い松の木数本が僅かに昔の風情を

元芳井教育長 篠原国夫氏の説 その1

天の神々が天降ったという古事は、古代人がこの地に住み着いて集落がここから開けたこと意味する。高地に集落を営んでいた人達も、やがて人口が増えると共にぼつぼつと低地へと下り始めた。

「井原の伝説」という書物に昔、井原一帯は深い沼地であったと記されている。皇太子神社や倉垣(現在の倉掛)の辺に吉井川(小田川)の中州があり、左右に分かれて流れていた。その丘の南面は砂が堆積してかなり広いデルタ地帯を形成し、米作りには恰好の耕地となり、人家も次第に増えて井原の里はこの倉垣を中心に急速に発展したと考えられる。

紀元七〇一年大宝律令の発布により全国に



■史談いばら掲載の篠原国夫氏(芳井町・九十歳)の原稿を抜粋

『地域の皆さんよろしく』

さくらの家です

倉掛へボランティア事務所

井原市福祉をよくする会のボランティア事務所「さくらの家」が、倉掛の目抜き通りに面した片岡ビルの一階に開設された。

この組織は医療法人さのこ会(佐々木健理事長)から福祉に役立てて欲しいと

- ◆ 行事予定 ◆
- 10/31 井原市文化祭 (11/1まで)
- 11/ 1 井原町地区対抗球技大会
会場：井原小学校
- 11/ 1 消防井原分団第5部試運転日
- 11/ 1 岡山県高校駅伝競走大会
- 11/ 9 倉掛少年団夜警活動
※11日まで3日間の予定
(午後7時出発式・郷社)
- 11/14 農林業ふる里まつり
- 11/15 倉掛少年団廃品回収
(午前8時30分～)
- 11/28 井原公民館学習作品発表会
- 12/ 6 倉掛少年団クリスマス会
会場：井原市民会館
- 12/13 全国健康マラソン井原大会
- 12/19 自治連合会防犯パトロール
- 12/28-29 井原分団第5部年末夜警活動

井原市へ寄付された三千万円の有効利用を目的に結成されたもので、痴呆・ボランティア・教育・広報の四つに分かれて活動する。

落合清三会長(西江原郵便局長)は「このような形でボランティア基地が出来た事は全国的にも珍しい。井原市は福祉の面は進んでいるが、行政ゆえに出来ない部分もある。各ボランティアの組織化なども視野に入れ、隙間を埋める様な活動を計画している。先ずは誰もが気軽に話し合える場を作る事が大切」と述べ、地域のバックアップに期待を寄せている。

事務所 井原市井原町三七二一六(☎〇八六六一六二一八〇〇七)